

京まち工房



F A L L
情報交流誌

no.

48

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

ち い き はぐく わ 地域で育むまちづくりの環

特 集

地域紹介「賀茂葵」

洛北の地から、地域連携のまちづくり「賀茂葵コミュニティ」が始動!!

地域社会でのマンションとの共生

マンションコミュニティや管理組合の活動を積極的に評価する基準と体制づくり

第2回あちらこちらに「まちの縁側」

まちの縁側「コミニテ食堂」

堀川に水が戻るまでのまちづくりの軌跡(後編)

針江生水の郷に見る水と人との関係

景観・まちづくりシンポジウム

明日に活かす京町家～京町家まちづくり調査中間報告会～

景観・まちづくり大学2009 開講中!

京のまちづくり史セミナー

まちづくり実践塾

こどもセミナー '09

京町家再生セミナー

町家所有者・居住者の集い

他都市における景観・まちづくり事例

瀬戸内の歴史港湾都市＝尾道市との「歴まち」交流

京町家の再生展 Machiya Revival in Kyoto

京都(Kate)のつぶやき

京町家まちづくりファンドの取組

寄 稿

京町家保全・再生の事例

町家古本はんのき

寄 稿

私と京都

観光資源として発信したい京都の銭湯文化

コラム

第2回 ふっきーの徒然なるままに

自然との共生ー京町家に考えるー



特集 地域紹介「賀茂葵」

洛北の地から、地域連携のまちづくり—『賀茂葵コミュニティ』が始動！

洛北の地で、新しいまちづくりが動き始めています。

賀茂地域を中心に、北区から左京区にまたがる京都の市街地北部のエリア。この行政区を越える広範な地域において、多様なまちづくりの主体が連携し、地域全体の活性化を目指そうというネットワーク型の団体が『賀茂葵コミュニティ』です。

■ 豊かな自然環境と歴史・文化の奥深さ

この地域は、豊富な歴史・文化資源や自然環境に恵まれています。世界遺産である上賀茂神社、下鴨神社はもちろんシンボリックな存在ですが、平安京が遷都される以前からの歴史を有する地です。掘り起こされていない資源もたくさんあるようです。地域の歴史を調べておられる上賀茂自治連合会の方も、「上賀茂は本当に奥が深い。」とおっしゃっていました。そうした地域の資源を、訪れる人にも知ってもらおうと一部をマップにまとめておられます。

雲錦亭

柿本人麻呂と山部赤人をまつた(詩仙堂ならぬ)歌仙堂がある。江戸後期の歌人、賀茂季鷹が建てた。

大田の小道

かの北大路魯山人も愛したと言われる、大田神社の裏の散歩道。上賀茂は魯山人生誕地でもあります。



上賀茂歴史マップ:上賀茂自治連合会 藤井豊一郎氏作成
(センターのホームページでも公開しています。)

満開のハリセンボン

上賀茂神社の境内にあるハリセンボンの花。「指切り拳万嘘ついたらハリセンボン吞ます」のハリセンボンとの説も。南天に似た実はとても苦いらしい。

神馬堂の葵餅

一文字屋が廃業した時に、職人だった池田氏が神社の神馬舎で始めたことからこの名がついた。

景観保全の取組も進んでいます。上賀茂神社から流れ出ている明神川沿いの社家町の町並みは、上賀茂伝統的建造物群保存地区(2.7ha)に、さらにその周辺は上賀茂郷界わい景観整備地区(22ha)に指定され、豊かな自然環境を背景に社家と農家が混在する町並みが保全されています。



明神川沿いの社家の町並み

センターでは、12月19日に「上賀茂神社と水」と題して、上賀茂神社と周辺地域のまちづくりを取り上げたセミナーを開催する予定です。

この地域には京都議定書の議決の場となった国立京都国際会館をはじめ、総合資料館、植物園、京都コンサートホールといった文化施設や、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都産業大学などの教育・研究施設も多く立地しています。地域住民の意識の高さに、これらの施設も加わり、環境保全や文化活動が活発に行われている地域でもあります。

一方で、地域の交通事情は問題があると認識されています。その背景には市バスの路線統合や運行本数の少なさなどがあります。上賀茂神社への公共交通機関でのアクセスが不便であることに象徴されるように、観光と地域生活の両面から課題と捉えられています。

■ 連携・協働で地域活性化に挑戦

京都市市街地北部のもつ環境や文化をより強く内外に伝えて、行政区を超えた地域の活性化を図ろうというのが『賀茂葵コミュニティ』です。上賀茂神社がフラッグシップの役割を担い、地域自治組織、地域の商店街や地域をフィールドとしている大学、NPO、地域に立地する文化施設などの参加団体が、定期的に情報共有しながら、自立的にあるいは連携して地域の活性化に取り組んでいこうというネットワーク型の団体です。

この秋には、北山・下鴨に立地する文化施設群と、賀茂葵コミュニティとの共催イベントを企画しています。

また、京の輪プロジェクトが中心となって、賀茂葵コミュニティと地域住民や地域を訪れる人々たちとのコミュニケーションツールとして、『葵ポスト』の取組を進める予定です。

■ 葵ポスト



葵祭でも知られる、二葉葵の名を冠しています。8月2日の上賀茂神社七夕まつりの一環で、地域の子供達に作成してもらいました。この『葵ポスト』を活用しながら、地域の課題や賀茂葵コミュニティの運営などについて、地域住民や地域を訪れる人々たちとの

意見交換をしていきたいと企画しています。(森川宏剛)

賀茂葵コミュニティの参加団体 (H21.9現在 順不同)

上賀茂自治連合会	京都グランドプリンスホテル
上賀茂神社	京都産業大学
上賀茂神社青年会	京都工芸繊維大学
下鴨神社青年会	京都府立大学
実相院	NPO法人 京都生活環境づくり21
北山街協同組合	NPO法人 三つの花プロジェクト
御園橋801商店街振興組合	京の輪プロジェクト
北山フラワーストリート	葵プロジェクト
国立京都国際会館	北区役所
京都府立植物園	左京区役所
京都コンサートホール	京都市景観・まちづくりセンター
京都府立総合資料館	



地域社会でのマンションとの共生

マンションコミュニティや管理組合の活動を積極的に評価する基準と体制づくり

～「京都マンション管理評価検討委員会」の試み～

マンションにおいても自治会を作りコミュニティ活動を行ったり、区分所有者が管理組合を作りマンションの管理運営を行っています。この活動はマンションや地域社会での暮らし良さに大きく影響することから「マンションは管理を買う時代」とも言われています。今回は、そのマンションの管理を適正に評価し、マンションの良好な維持管理とコミュニティ形成を図る動機を醸成するとともに、既存マンション市場の流通促進に寄与するストック社会に向けた『京都方式』の情報基盤整備の仕組み作りを行っている「京都マンション管理評価検討委員会」の取組を紹介します。

この委員会は国土交通省の「超長期住宅推進環境整備事業」の一環である「200年住まい・まちづくり担い手事業」のモデル事業として2008年9月に発足、マンションに関わる研究者や各種専門家、事業者が集まり、マンション管理の評価方法、内容、評価組織の検討を行いました。

管理の評価指標は、建物を維持する上で必要最小限の管理に関する基礎評価3項目と、優良管理評価5項目で構成されています。優良管理評価の5項目は、①自治による管理・運営、②豊かな人材の確保、③災害に備えた管理、④空住戸がない工夫、⑤地域との共存・共栄です。

特に⑤地域との共存・共栄の項目では、「自治会加入」や「地域行事参加」「地域情報の伝達」などの立地する地域との交流の働きかけがあることが、積極的に評価されるように指標の中に反映されています。マンションの管理内容やコミュ

ニティ形成は地域性を反映させることが重要ですが、京都ではこのように地域との良好な関係づくりを積極的に評価するように考慮されています。

なお現在では、「京都マンション管理評価機構」の立ち上げに向けた準備検討会が行われています(長期優良住宅先導的モデル事業に採択)。これらの取組の詳細やその後の活動状況については、センター主催のまちづくり実践塾(無料セミナー)でご報告する予定です。(※1) また、地域社会でのマンションとの共生についても、実際に取り組んでおられる地域の方々と意見交換会を行う予定です。(※2) (田中志敬)

※1 まちづくり実践塾「地域で住み続けられるマンションとは」
2010年1月9日(土)開催予定

※2 まちづくり実践塾「マンションは地域と共生して暮らせるのか」
2009年12月12日(土)開催予定



委員会の様子

第2回 あちらこちらに「まちの縁側」

誰もが立ち寄れる場、気軽に交流できる場、このような場所がまちの中にぽつぽつと出来てきています。私たちはこれを「まちの縁側」と呼び、地域コミュニティの新しい形として注目しています。

センターでは、これまでもシンポジウムやニュースレターで、「まちの縁側」の活動を紹介してきましたが、今回、連載記事として、それぞれのまちの縁側主人に活動の紹介をしていただくことにしました。第2回は、上京区で「コミニテ食堂」を主宰しておられる特定非営利活動法人「恒河沙母親の会」理事長 福島 美枝子さんの登場です。

まちの縁側「コミニテ食堂」

特定非営利活動法人恒河沙母親の会
理事長 福島 美枝子



子供からお年寄りまで集う

京都市上京区の千本中立売にある「コミニテ食堂」は、ひきこもり、不登校に悩む青少年と親たちを支援するNPO法人「恒河沙(ごうがしゃ)」の活動場所です。2006年6月のオープン以来、「心がしぼんでしまって生きることが楽しくなくなった人も、ここでみんなと一緒に過ごせば元気になるよ」と呼び掛け、会員たちの居場所、学びの場となってきました。

「恒河沙」とはガンジス河の砂のこと、無限の命の永遠の連なりを意味しています。目標はひきこもりによる孤立からの脱出、生きる喜びの発見です。フリースクールでの学習、仲間との交流、スポーツ、就業体験などを通じて、段階的に社会参加することを目指しています。現在の会員は約40人です。

社会参加には、何よりも地域の力が欠かせません。コミニテ食堂には子どもからお年寄りまで、地元のさまざまな人たちが集まってきました。京町家を一部改装した建物内では、みんなが思い思いに食事したり、作業をしたり、くつろいでいます。高齢者の生きがいづくりにも一役買っています。

会員らは西賀茂の農園でボランティアの農家の人からいろいろ教えてもらいながら、力を合わせて無農薬野菜を栽培しています。採れたての新鮮な野菜をふんだんに使った日替わりランチは食堂の人気メニューです。

新聞発行も大事な仕事です。昨年発刊した『すきすき京都』はこの夏号で第5号になりました。パソコンで編集作業をする若者たちもすっかり手慣れてきました。食堂の営業日は毎週火曜日から木曜日の昼食時。一度気軽にお立ち寄りください。問い合わせ先は075-414-4192(恒河沙母親の会)。



町家を利用したコミニテ食堂
外観



京のまちづくり史って
なんだろう。
調べてみよう。

堀川に水が戻るまでの まちづくりの軌跡 (後編)

前編に引き続き、西陣地域住民福祉協議会の吉川会長に取材した内容を紹介します。

「堀川と堀川通りを美しくする会」発足から14年目の平成11年、まちづくりの新たな契機となる出来事があった。堀川の取組を後押しする為、「堀川と堀川通りを美しくする会」と「京都堀川ライオンズクラブ」が主催し、センターが共催して、学生コンクールを実施したのである。大学の学部生や院生達がそれぞれ提案した「未来の堀川の姿」を、まとめ発表した。これは単なるイベントで終わらず、平成12年12月の住民、学識者、行政など100人以上が一堂



現在の堀川

に会するワークショップの開催に繋がっていった。このワークショップは、延べ82回開催され、約1000人の方に参加いただいた。この場での積極的な意見交換は、堀川構想を形成していく上で重要な役割を果たすものとなった。

平成13年には、住民、行政だけでなく、近隣の幼稚園、小学校、中学校も巻き込ん

だ「子供サミット」や「釣り灯籠」のイベントが実施され、さらなる取組の拡大が図られた。これらの取組を地域一丸となって約四半世紀継続した末、堀川をコミュニティの川として蘇えらせた。通水式の直前に行われた京都市主催の大風流における「せせらぎウォーカソン」では、あいにくの雨模様にも関わらず、大勢の地域住民が参加され、この取組に寄せる期待の大きさがうかがえた。

吉川会長は「まちづくりは息切れするから継続が大変。この取組は、ハード整備を行政、ソフトの人づくり、コーディネータ役を地域、活動資金をライオンズが支援したから続いた。まさにパートナーシップでやりきった取組だった。」と、語られた。

地域に愛される川になる様子が目に浮かぶようである。最後に、当初の目的であった堀川通りの清掃活動はどうなっているかがあったところ、「今は清掃活動をしなくてもごみを探すのが大変なんや。」だそう。

美しい堀川と堀川通りを見ると、市民の発意とまちづくり活動の継続が生み出したものの大きさを感じるばかりであった。

(木下良枝)



吉川会長



堀川・通水式典

はり えしょうす さと 針江生水の郷に見る水と人との関係

立命館大学 狭川尚己

私は「地域共創プロデューサー育成プログラム」の一環として、立命館大学から客員研究員としてセンターに派遣されました。「京都の水辺再生における住民参加のあり方」を研究テーマにしています。上欄で紹介された堀川の取組のような事例が今後、京都市内で広がることを期待しています。今回、水辺空間が暮らしを豊かにし、地域の結束のシンボルとなっている滋賀県高島市新旭町針江地区にある「針江生水の郷委員会」の方に取材させていただきました。

地下水の豊富な針江では、各家庭が川端かわばたという湧水を利用した独特の台所を持っています。川端は、大きな鍋を洗ったり、野菜やお茶を冷やすのに使われています。川端の水は集落の水路を通って針江大川に流れ、やがて琵琶湖に流れこみます。

針江大川の水源の7割は湧水です。各家庭の川端と集落の水路では多くの鯉が飼われ、水を浄化しています。郷の方は「鯉は川端をきれいにしてくれる家族のようなもの」と語られていました。川には魚が休息するブロックが設けられ、自然と人間との共生がうかがえました。また、針江に



川端の外観

は、「上の人には下の人に迷惑をかけないように水を汚さない」という暗黙のルールがあります。

最近でも川端を新たに作る人がいるそうです。飲み水、洗い場、子どもの水遊び場など様々な機能をもつ川端は魅力的なのでしょう。昔はどこにでもあったこのような水と人との関係が針江に特に残っているのは、豊富な湧水のおかげです。こうやって針江では水を大切にする文化が今でも受け継がれ、水を通じて地域の人たちのつながり、文化や生活までもが保たれていると感じられました。



川端を利用し野菜を冷やす



景観・まちづくりシンポジウム 明日に活かす京町家～京町家まちづくり調査中間報告会～

京町家まちづくり調査の西陣・伏見エリア調査報告とこれからの京町家について考える！



2008年10月から京都市内全域で実施している「京町家まちづくり調査」。京都市内に約5万軒現存すると言われている京町家の調査も、8月末までに約3万軒が終了し、やっと調査も折り返し地点を過ぎました。

7月20日（祝）に開催した「明日に活かす京町家」と題したシンポジウムでは、京町家まちづくり調査の中間報告と、テーマごとに分かれた分科会で意見交換を行いました。当日は約200名の方が参加され、会場は満員御礼となり、この調査に対する関心の高さがうかがえました。このシンポジウムの概要について報告します。

第1部～京町家まちづくり調査中間報告～

5月末までに行った京町家の外観調査結果とアンケート結果で明らかになった居住者の意向、また、調査結果のデータベース化とその活用方法について報告を行いました。

はじめに、京都府立大学の宗田好史准教授より、京町家の保全・再生の変遷や今後の展望についてご報告いただきました。

次に、調査結果の集計が終了した西陣エリアと伏見エリアの調査報告を行いました。

	外観調査		アンケート調査	
	町家軒数	空家率	町家と認識	所有町家を残したい
西陣エリア	10,540軒	10.2%	32.7%	44.0%
伏見エリア	5,815軒	13.6%	16.5%	42.7%

(京町家まちづくり調査中間報告書より抜粋)

外観調査から「西陣と伏見では活用形態と構造に違いがあった」、西陣エリアの追跡調査では「年間2%減少していた」、などの報告を行いました。また、アンケート調査からは、京町家を残していく上で多くの方が「維持修繕費を負担に感じている」と、「町家を今後どうしたいか」の設問では、約4割の方が「町家を残したい」と考えられている一方、ほぼ同数の方が「現在考えなし」である、などの報告を行いました。調査結果の詳細は、センターホームページ (<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>) の京町家まちづくり調査の欄にある「中間報告書」をご覧ください。

また、実施主体の一員である立命館大学の矢野桂司教授より、調査結果を地図データ化してどのように活用できるかご説明いただきました。



第2部～分科会～

第2部は、テーマ別に3会場に分かれて行いました。

第1分科会「京町家を引き継ごう～次の世代への相続～」

コーディネーター：宗田好史氏（京都府立大学准教授）

話題提供者：石田光曠氏（NPO法人住宅ねっと相談室事務局長）

辻本尚子氏（財京都地域創造基金理事、税理士）

吉田光一氏（財日本賃貸住宅管理協会京都支部長）

「相続」をテーマに、相続税の計算方法や権利関係を相続前に整理しておく必要性などについて、具体例を取り上げながら意見交換をしました。京町家を残し次の世代に引き継ぐための方策として、「承継」という形で意思を示していくこと、その手法として「信託の活用」についての提案がありました。

第2分科会「京町家を再生しよう～現行法規の限界に挑戦～」

話題提供者：奥田辰雄氏（木四郎建築設計室代表）

木下龍一氏（NPO法人京町家再生研究会理事）

西村孝平氏（都市居住推進研究会事務局長）

伝統構法で建てられた京町家は、建築基準法の施行（1950年）以前の建物で現在の法律に合わないところが多く、京町家の保全・再生における現行法規での難しさなど、現場からのご意見が会場からも多く寄せられました。「京町家が残るまちなみを将来まで保つていくために、何が必要で何を变えていくべきかの具体的な検討が必要だ」という声があり、「ぜひ、この続きの議論を」という要望もありました。

第3分科会「京町家を活かそう～新たな仕組みの提案～」

話題提供者：岡本秀巳氏（(社)京都府不動産コンサルティング協会理事長）

栗山裕子氏（NPO法人古材文化の会副会長）

松井 薫氏（京町家情報センター事務局長）

話題提供者の方々が取り組んでこられた先進的な活動の紹介の後、京町家に不動産信託の手法を導入する仕組みや、木造建築を総合的にサポートする機関の構想といった新しい提案、イベントを通して京町家に対する人の意識を変えていく重要性についてお話いただきました。後半では、参加者からの質問や意見を踏まえて議論を深め、京町家に関わる人と人のつながりの大切さを改めて認識しました。

調査結果や分科会の議論から、様々な京町家の現状や問題点、お住まいの方の意識、また、保全・再生への意見や提案が出されました。これらを今後の京町家の取組に活かしていけるよう皆さんと協力して進めていこうと考えております。

なお、シンポジウムの詳しい内容につきましては、センターホームページ (<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>) の「景観・まちづくりシンポジウム」に摘録を掲載していますのでご覧ください。

京町家まちづくり調査懇親会

ここをクリック→



シンポジウムの後に開催した調査員の方を対象とした懇親会では、約60名の方が参加され、こちらも盛り上がりしました。会場はセンター



最多参加者の発表で会場は盛り上がっています

の北側にある「五條楽園歌舞練場」。1915年大正時代に建てられた3階建ての木造建築です。現在は貸し会場となっていますが、歌舞練場としての面影が残るなんともいえないレトロな異空間で、日頃の調査の話や京町家の話など、和気あいあいと交流を深めることができました。





景観・まちづくり大学2009 開講中！



7月～8月に開催されたセミナーを報告します

京のまちづくり史セミナー (7月18日)

京の水とまちづくり①—住みこなしと地域資源活用のまちづくり

講師：高橋康夫氏（京都大学大学院教授）

今年度は「京の水とまちづくり」をテーマに開講しました。京都の暮らしや産業、文化・芸術を支えてきた京の水は、今後の京都のまちづくり・都市づくりを考えていく上でも決して欠くことのできない重要なテーマです。

今回は第一回目ということもあり、通史の初回として古代から中世期を中心に水と京都の関わりについて高橋先生にご講義いただきました。

現在、京都のまち中で見られる河川は、暗渠化されたものを除くと、鴨川・桂川・白川・堀川・紙屋川・高瀬川・西高瀬川・琵琶湖疏水・宇治川などがあります。名水や名井と呼ばれるものも多く、それらによって茶の湯や京友禅・酒・豆腐など、様々な京の文化が育まれてきました。

講義は、平安京遷都の頃の山川の美意識や地理に加え、^{みそぎ}禊や納涼の場としての鴨川（鴨河原）や堀川の水運など歴史上の役割と当時の風景について、また神泉苑や小椋池の利用と沿革に至るまで、専門的な内容を幅広く、且つ時系列によって分かりやすく進められました。途中、伏見城の話なども交えつつ、スライドで洛中洛外図屏風の中の人々がまち中の水を利用している情景が映し出されると、当時の京都の姿を垣間見られたようで、会場内も一層盛り上がりしました。

後半の質疑応答では、市民の方から都市整備における「人工」と「自然」のありかに関する質問や、今後観光等で計画的に水を利用したまちづくりを考えていくことができないかといった意見など、大変関心の高い意見が寄せられました。

まちづくり実践塾

(7月26日、8月8日)

家に眠った写真を集めて『まちの記憶』を呼び起こそう ～地域でのまちかどアルバムの作り方と使い方～

講師：中村伸之氏（㈲ランドデザイン）

7月は、センターの地域まちづくり支援の切り口の一つにもなっている「まちかどアルバム」をテーマに意見交換会を行いました。この「まちかどアルバム」は、家に眠った写真を集めて「まちの記憶」として住民で共有することで、地域の魅力の再発見や住民交流を深めていくまちづくりの取組です。

まちの風景や小学校の集合写真などの懐かしい写真のスライドを見たり、地元から聞いたり、調べたりした写真にまつわるエピソードを聞きながら、写真の集め方、作り方、使い方を学びました。会場には地域活動を行っている方も多く、写真の集め

方やスキャナーでの読み取り方法などの質問が寄せられ、自分の地域でも取り組んでみたいという声も聞かれました。

また、8月には、京都商店連盟との協働企画として、「地域に密着した商店街とまちづくりの接点～頑張る商店街の現状とまちづくりで果たしている役割」をテーマに開催しました。



懐かしい写真のスライドショー

こどもセミナー '09

(8月1日、8月8日)

京都のまち博士になろう！

話し手：乾 亨氏（立命館大学教授）、杉下浩教氏（本能まちづくり委員会）
まち歩き案内人：山本英雄氏、才本隆司氏

「地藏盆」をテーマに、京都のまち、受け継がれている住民交流の行事について、幼児から小学校6年生までの次世代の担い手達に伝えるセミナーを行いました。お話し会は、1時間以上のスライドを使った「お地藏さん」「地獄」「両側町の歴史」の話を、

じっと座って耳を傾け、最近京都に引っ越してきた少年からは「京都のことがわかってよかった！」との感想がありました。まち歩きでは、お地藏さんを探し、写真を撮りながら、まちなか探検を行い、最後に写真パネルを制作しました。両

日共に行った地藏盆ミニ体験は、お話し会の中に出てきた「ふごおろし」という、2階の窓から籠が下りてくる福引を、ひとまち交流館の吹き抜けで体験したり、町家に訪れて格子を外したり、飴の数当てゲームをしたり、数珠回しを行いました。身近な地域と置き換え、興味を持つきっかけ作りになったようです。



お話し会の様子



ふごおろしの様子



数珠回しの様子

京町家再生セミナー

(8月2日)

第1回 きみんちだけのオリジナル^{しょうき}鐘馗さんをつくろう

講師：光本大助氏（光本瓦店(有)）

平成20年度に引き続き、「町家をもっと好きになる」をテーマに京町家再生セミナーを開催しています。

センターから京町家に関するミニ講座、講師の光本さんから鐘馗さんについてとその作り方の説明の後、27組、55名の方が、約2時間、土と奮闘して思い思いの鐘馗さんを制作されました。(鐘馗さんとは、町家の屋根庇に祀られる魔除けの神さまで、瓦と同じ素材でできています。)ほぼ全員の方が、初めての経験だったにもかかわらず、あまりに上手でスタッフ一同びっくり！自分で作った鐘馗さんと記念撮影されるお顔は皆満足そうで、満面の笑みでした。

光本さんからは、窯に入れる前に、徐々にゆっくりと乾燥させていくことの大変さもうかがいました。焼き上がり

までは1ヵ月余り。参加者の皆さんの鐘馗さんがお手元に届いた後、屋根庇の上に据え付けられ、京町家が大切にされていくことが期待されます。



鐘馗さんをつくる子どもたち

町家所有者・居住者の集い (7月26日)

わが家の見どころ再発見！～町家を見るツボ、家の撮り方を学ぶ～

講師：小針剛氏（町家倶楽部ネットワーク事務局長）

京町家をお持ちの方やお住まいの方、京町家暮らしに興味をお持ちの方が集まり、京町家の見学会や体験会、意見交換などを行っています。

7月の集いでは、写真家でもある小針剛さんをお招きし、京町家の良さを活かす写真の撮り方を教えていただきました。会場は、集いにご参加の方のご自宅です。

「ここがいいな」と思う京町家のポイントを、それぞれのカメラでパチリパチリ。「ちょっとカメラの角度を変えてみて」「この建物の軒先に工夫された、大工さんの仕事を見てみて」との小針さんのアドバイスで、見過ごしがちな町家の魅力がどんどん浮き上がってきました。

最後の作品発表会では、いろんな視点で切り取られた町家の魅力がたくさん並び、それぞれのご自宅である京町家のエピソードにも花が咲きました。

集いは、気軽な交流の場です。ワイワイがやがや楽しみながら、京町家とのおつきあいのヒントを、見つけてみませんか？



7月集いの様子。撮影した写真を囲んで意見交換をしました。

他都市における景観・まちづくり事例

瀬戸内の歴史港湾都市＝尾道市との「歴まち」交流

三村 浩史

7月7日、尾道市文化振興課の小林哲也課長と西井亨主事がセンターを来訪されました。

坂道のまち、文芸の由緒、千光寺からの尾道水道の眺めなど有名ですが、中世以来の瀬戸内水運・流通の一大拠点として栄えた港湾都市です。非戦災であり無数の史跡と町並みが各時代の姿を今日に伝えています。

景観基本プランは4年前に策定、旧市街地の建築物と井戸や石畳や護岸など環境物件の調査も完了し、昨年度からは、「歴まち」計画に取り組んでいます。

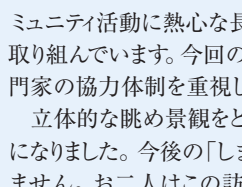


千光寺山から尾道水道を望む

「歴まち」とは「歴史まちづくり法」、正式には「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律」(2008)です。史跡や建造物などの有形文化財＝ハード面と、お祭りや伝統産業・農林水産＝ソフト面とを一体とする、地域の趣きを大



空き家空き地、高齢化



急斜面の市街地

切にするまちづくり事業を積極的に進めようという新制度です。京都市も来年度に向けて準備中です。

「斜面市街地は尾道を代表する景観ですが、高齢化につれて空き家が増加しています。こうした中、若者を中心としたNPO「尾道空き家再生プロジェクト」や、コミュニティ活動に熱心な長江中町内会まちづくり研究会などが熱心に取り組んでいます。今回の「歴まち」調査でもはじめから地域住民と専門家の協力体制を重視しています。」とのこと。

立体的な眺め景観をどう保全するか、京都市の新景観条例も話題になりました。今後の「しまなみ海道」景観プランの参考になるかもしれません。お二人はこの訪問の前後レンタサイクルで市内をまわるなど、

とても熱心に1日を過ごされました。
(当センター理事長。尾道市の「歴まち」計画にも参加。)



京町家の再生展

Machiya Revival in Kyoto

(7月11日～7月16日)

「京町家の再生 Machiya Revival in Kyoto」の出版を記念し、日差しが眩しい文月に6日間、京都市上京区の「ギャラリー be 京都」にて、「京町家の再生展」を開催しました。

平成17年9月に京町家を保全・再生・活用していくための基金「京町家まちづくりファンド」を設立してから、これまで39件の京町家の改修を応援してきました。今回はその再生事例と京都の昭和初期から30年代の懐かしいまちなみ写真のパネルやファンド、募金箱の作品を紹介しました。

企画展示の他に、まちづくりツアー「今日庵茶道資料館でお茶体験」や「京町家なんでも相談」も実施しました。

京町家なんでも相談では、京町家の改修方法で悩んでいる方、住みながら事務所をしたいと思っている方、町家でのご近所付き合いについて情報収集に来られた方から、多くの相談が寄せられました。

京都市内のほか、東京都や大阪府からもご来場をいただき、西陣のまちの魅力を体感し、偶然出会った人たちが京町家談義に花を咲かせ、楽しいひとときを過ごしていただけたと思います。

11月には、京町家まちづくりファンドで応援した京町家を中心に巡る「まちづくりツアー」を開催いたします。詳細が決まり次第センターのホームページなどでご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。



ギャラリー be 京都 外観
平成18年度に京町家まちづくりファンドを活用して改修されました。



パネル展示のほか、寄付付商品やファンドバナナの販売もしました！



ファンド事業報告会
まち歩きツアーやバナナケーキをお楽しみいただきました。

京町家まちづくりファンド事業報告会 (7月12日)

西陣の「千両が辻」や「南舟岡山」のまち歩きの後、be 京都の和室スペースで、「京町家まちづくりバナナケーキ」をいただきながら、平成20年度の助成物件の紹介や寄付拡大の取組についての報告会を行いました。

京町家まちづくりバナナケーキとは、再生展の特別企画として「京町家まちづくりバナナ」(京まち工房46号参照)を材料に「カフェ箔屋」(北区北大路堀川下ル)が焼いてくださった期間限定オリジナルバナナケーキです。会場で販売をさせていただき、売上の一部を基金へ募金していただきました。原材料にこだわったケーキは、大変おいしく好評でした！ありがとうございました。(大屋みのり)

京町家まちづくり募金箱 仲間が増えました！！ 設置していただける方、募集中！

木の募金箱



撮影協力：キンシ正宗堀野記念館

デザインを京都女子大学の出井豊二先生、制作を木村忠紀棟梁にご協力いただきました。また、町家の模型は、ニューリー株式会社さんに提供していただきました。木村棟梁に作っていただいた募金箱は、杉やヒノキ、桐など、色々な木の種類の募金箱です。木目によって全然違う雰囲気のできる募金箱です。

真竹の募金箱



当センターの福島事務局長の企画で誕生した真竹の募金箱です。置き式と壁かけ式の2タイプあります。

【福島事務局長のこだわり】

日本の伝統的な材である竹を使った京町家を彩る調度としての一輪挿し。お店等のカウンターの横に、或いはお座敷の隅に、可憐な一輪を愛でながら京町家の息吹きを夢見る募金箱です。



景都(Kate)のつぶやき

先日お休みをとって韓国に行ってきました。京都でも宿泊施設として京町家ステイが人気ですが、韓国でも韓国版の町家「韓屋(ハノク)」といわれる伝統的家屋での宿泊がこの頃人気だとか。泊ってみよう、と数軒問合せをしたのですが、「2か月前から満杯で～す」とのお返事もあったりで、結局予約できず…。センターでも、海外の方と京町家の保全・再生について協力して取り組んだり、また、町家のことを知りたいといった海外からの視察も増えるなど、「町家ってグローバルだなあ」、と実感しているところです。

さて、ソウル市内で韓屋の集まる地域「北村(プッチョン)」」。1984年「韓屋保存地区」に指定され、韓屋を保存するために増改築が

厳しく規制されたのですが、家屋の老朽化の進行と維持修繕費の負担の重さなどから住民の不満が爆発したそうです。その後、一旦は規制を解除したのですが、今度は伝統的な家屋が急減少し、まちなみが壊れていくという結果を招いてしまい…。近年は、韓屋を蘇らせたり守っていくことで北村の価値を高めようという動きが広まり、伝統的なまちなみ景観の保全する機運が再び興っているようです。うーん、まちには紆余曲折があるものなんですね。また、北村の周辺にも韓屋が残っている地域もあり、韓屋のカフェや雑貨屋さんがたくさんあり、若いオシャレさんが集まるまちとなりました。若い層が伝統家屋をオシャレととらえる感覚は共通なのかな～なんて。

(H. Y)



京町家まちづくりファンドの取組



京町家まちづくりファンドでの応援物件は、39件となりました。今回ご紹介しております山本邸、才本邸は、8月8日に開催したこどもセミナー(P6参照)の「地蔵盆体験」の会場としてご協力いただきました。カフェ箔屋さんには、京町家の再生展で京町家まちづくりバナナケーキ(P8参照)をご協力いただきました。

山本邸「住みつづける町家を残していきたい」(こどもセミナーを実施：P6をご覧ください)

お祖父さんから受け継いだ築160年の京町家を「これから200年は使えるようにしたい」と地道に外観や内部の改修をされてきました。(改修前①から改修前②)ファンドでは、写真ではわかりにくいですが、町家を守る大事な屋根を応援させていただきました。(改修前②から改修後)「京町家をできる限り原型に近い形で残すためには、住み続けることが大切。そうすることで未来へ引き継いでいくことができるはず」と、思いを語ってください



改修前①



改修前②



改修後
屋根に注目！



こどもセミナーの様子
格子をはずし、地蔵盆体験をしました。

才本邸「地域の拠点を大事に」(こどもセミナーを実施：P6をご覧ください)

長年の間、地域の地蔵盆会場として使われていた町家が売却されることになり、才本さんのお父様が建物がなくなことを憂慮され、この町家を買収されました。その後、才本さんがこの町家の所有者となり、地蔵盆会場、地域活動の拠点として活用するため、改修を決意されました。また、古材文化の会と協力して工事の工程を公開することなどにより、改修工事の記



改修前



改修後



こどもセミナーの様子
お地蔵さんと路地めぐりをしました。



こどもセミナーの様子
まちあるきで撮った写真でパネルを制作しました。

カフェ箔屋「風通しのいいカフェをしたい」(京町家まちづくりバナナケーキ：P8をご覧ください)

西陣織の箔屋さんとして使われ、看板建築となっていた町家を住まい兼カフェとして再生されました。カフェやギャラリーを通じて「京町家の良さ、先人の知恵や伝統をできるだけ多くの人に体験してもらえれば」とオーナーの谷口さん。若いアーティストたちとの出会いもあり、楽しみながらマイペースでお菓子づくりに励んでおられます。



改修前



改修後



店内の様子

カフェ箔屋

住所：北区紫野西御所田町67-4(北大路堀川下ル東側)

電話：075-411-1218

営業時間：11：00～18：00／定休日：日・月曜日

*こだわりのコーヒーや手作りケーキが大変美味しくておすすめです。

(井上和子)

京町家保全・再生の事例

町家古本はんのき (上京区東小川通り)

「町家古本はんのき」さんは、平成20年度のセンターの事業である「わたしの家物語」という冊子を制作させていただいた京町家です。冊子作りをきっかけに、オーナーの中山さんをはじめ関わった方は、この町家についての価値を再認識されました。また、中山さんは町家倶楽部ネットワークの小針さんともご縁ができ、別に所有されていた長屋の再生も実現されるなど、素敵な出来事に繋がりました。今回は、この町家を借り、自力改修されて古本屋をオープンされた店主の一人、古田さんに、この町家が「町家古本はんのき」として再生するまでの物語について紹介していただきます。

3人の店主が古本屋を開業

町家古本はんのき 古田紀子

上京区堀川通寺ノ内東入ル妙顕寺から南に下がった東小川通りにある築100年の町家でこのたび古本屋『町家古本はんのき』を開業しました。3人の店主が交代で店番をしています。

時は2008年の秋、別々に古本屋をやろうかなと考えていた3人が烏丸通寺ノ内にある喫茶店を通じて出会いました。

「この近所に部屋を貸してくれる町家があるらしい。」と言われて3人で訪れたのがこの町家との初対面でした。

玄関に入ると、うなぎの寝床と表される典型的な京町家の通り庭がずっと奥まで続いていました。玄関に入って左手の通りに面した部屋を、貸していただけるとのこと。ひざ下くらいの高さの敷居をまたいで、部屋に入ると打ちっぱなしの土間でした。土間の一部にはなぜか土が入っていて枯れ木がしょぼんと立っていました。以前にこの家を借りていた人がどうやらここで植物を育て、庭を造っていたようです。

天井を仰ぐと太くて真っ黒な柱が通っています。豆電球のスイッチをひねって電気をつけてみてもどこもなく薄暗く、部屋の隅々に闇が潜んでいました。それに埃っぽく土っぽい空気です。窓の方に視線をやると、スリガラスを通して格子の隙間からもれる光が土間に網の目を描き、ホコリがきらきらと舞っていました。

「本当にこんなところで店ができるんだろうか。」

店をするにしても、資金力のない私たちは、大きな改修工事をするつもりはありませんでした。3人とも店を持つのは初めてです。「これは、お店を持つお試し期間なんだから、あまり手をかけずに必要最低限の工事を自分たちでできる範囲でやろう。」「薄暗いけど、この町家にはれた。」

そんな言葉が交わされ、3人で借りることにしました。「できる範囲で改修工事をする。」と言ってはみたものの、はてさて、町家の改修工事とはどんなことをするものなのか。建築の知識のない3人は途方にくれました。

ちょうどその頃、「ひと・まち交流館 京都」に出入りする機会があり、地下の京都市景観・まちづくりセンター(以下センター)で一枚のチラシを手に入れました。センターでは、町家の所有者・居住者向けのセミナーや、集まりが行われているとのこと。3人でそれらに参加し、京都建築専門学校(以下よしやまち)の存在を知りました。後日、よしやまちを訪ね、町家で古本屋を開店したいこと、自分たちで改修工事を行いたいこと、については専門家の方々のお知恵を拝借したいことなどを語り、先生とスタッフの方が町家を訪ねてくださることになりました。

一方、時を同じくして、この町家のオーナーである中山さんは、自宅ポストに投函されていた京町家まちづくりアン

ケートを手にしておられました。2008年10月～2010年3月にかけて実施されている京町家まちづくり調査ですが、ちょうどこの頃、上京区の町家にこのアンケートを投函していたのです。中山さんは、センターに電話をかけられ、この町家で、センターの事業である「わたしの家物語」の制作が行われることになりました。建築家や町家コーディネーター、工務店の方々が来られ、この町家の価値や特徴などをわかりやすく教えてください、写真家が撮影した写真とともに1冊の冊子にしてくださいました。

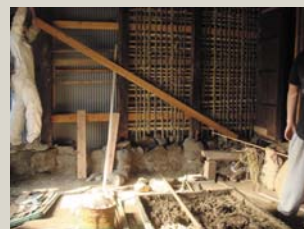


わたしの家物語 表紙



わたしの家物語 見開き

かくして、町家のオーナーさん、センター、よしやまちははじめとする専門家、そして私たち借り主がまるで一つの穴に吸い込まれる渦のようにこの町家に集結したのです。はんのきのメンバーは、2009年4月～7月にかけて京都建築専門学校の生徒さんたちにアドバイスをもらいながら一緒に町家の改修工事を行いました。壁をはがし、貫を入れ、竹小舞を藁で編み、土壁を塗りました。土が入っていた地面には、タタキを叩き込みました。工事が進むにつれ、部屋の隅々に溜まっていた闇は少しずつ薄れていきました。店は100年という時が培った懐かしさに包まれています。



自力改修中



はんのき 8月某日

〒602-0065

京都市上京区小川通寺之内下ル挽木町518

メール: m.f.hannoki@gmail.com

ブログ「町家古本はんのき - 開店からの記録帳」
http://machiyaikosyohannoki.blog114.fc2.com/



私と京都



フリーライター 林 宏樹

「観光資源として発信したい 京都の銭湯文化」

私が生まれ育ち、現在も住んでいるのは中京区の柳池学区です。私が銭湯に興味を持ち始めて、京都市内の浴場を一軒一軒訪ねまわっていた6年ほど前のこと。この中京区の自宅を中心に半径2kmの円を地図上に描き、何軒の銭湯がその円内にあるのかを数えてみました。すると41軒もの銭湯が、この自転車で10分もあれば行ける範囲に営業していました。

当時、京都市内では240軒ほどの銭湯が営業していましたが、これほどの密度と規模で銭湯が残っている町は、全国でもあまり例がありません。

もともと私が銭湯に興味を持ったのは、20代の後半から5年間暮らした東京で見

掛けた富士山のペンキ絵がきっかけでした。その富士山の絵は、銭湯と聞いて抱くイメージにぴったりだったのですが、京都では見たことがなく、京都にもあるのだろうかとの疑問に思ったのが発端です。結局、京都の現存する銭湯を全てまわっても富士山のペンキ絵は1枚も見えず、富士山のペンキ絵というのは、東京の文化で、東京発信されるマスコミに刷り込まれていたことに気付くのですが、京都の銭湯をまわるにつれ、京都には京都独自の銭湯文化があることも分かってきました。

例えば、京都の銭湯では柳行李や簾かごなどの脱衣かごに服を入れてから、かごとロッカーに入れますが、このような習慣が残っているのは全国でも京都だけです。また、建物に注目すると京都は戦災を免れたことから、戦前築の銭湯が数多く残っているのですが、それらの建物には京町家と同じ切子格子や一文字瓦が使われていたりします。ほかにも、タイル絵が脱衣場を飾っているのも京都以外ではあまり見られませんし、銭湯の顔とも言える暖簾にも「京都型」と呼ばれる男女2枚に分かれた形式があります。

このように銭湯には、京都ならではの、さらに言えば東京や大阪ならではのカタチが現在でも受け継がれています。しかも、入っているお客さんはほぼ地元の方々ですので、常連さん話に耳を傾ければ、ネイティブな京都弁で世間話をする

ナマの京都が聞けるわけです。

私自身、旅に出れば必ず現地の銭湯に入り、エセ現地人の気分を楽しむのですが、味わい深い風情を持つ京都の銭湯は、観光資源としても貴重な存在だと思います。私は「京都極楽銭湯案内」という著書や、「お風呂屋さんの京都案内」というウェブサイト、周辺案内をセットにして各銭湯の紹介をしていますが、そういった京都の町の楽しみ方が出来るのも京都の魅力の一面だと思います。

残念ながら、6年ほど前に市内に240軒ほどあった銭湯は、現在180軒ほどになってしまいました。この減少傾向は今後も続きそうなのですが、ライターになるきっかけを銭湯にもらった者として、またライターという情報発信を仕事としている者として、なんとか今後も京都独自の文化を持つ銭湯の魅力を、現場の京都から発信して行ければと思っています。



「京都極楽銭湯案内」(淡交社刊)

「お風呂屋さんの京都案内」URL
<http://www004.upp.so-net.ne.jp/ofuoyasan-teki/>



連載コラム 第2回 つれづれ ふっきーの徒然なるままに

自然との共生—京町家に考える—

地球環境問題が取り沙汰されて既に久しい。その流れもあって近年、建築活動のテーマとしても「自然との共生」という言葉が殊更大きく取り上げられるようになってきた。喜ばしいことである。この建築物に関わる自然との共生について少し考えてみたい。

建築物に関わる国の指導は、広い意味での「省エネ」が中心となっている。そしてその手法の一つに、環境遮断型建築物ともいえるべきものがある。外断熱や内断熱、断熱性の高い気密式サッシュ等々により、自然と隔離した独立空間を造ったうえで、機器による純粋環境を整えようとするものである。その自然環境との遮断、隔離がエネルギー効率を高めるのだ

という発想である。

京町家を考えてみよう。京町家にはもともと自然を遮断して別世界を造るという発想はない。人工的にでも自然の風情を敷地の中に取り入れ、季節の移ろい、刻の変化を五感、否、六感に感じつつ自然の厳しさを柔らかにコントロールする仕組に知恵を絞る。その代表格が坪庭、奥庭であろう。その効果について、目に入る緑や水の演出等が実際より涼しく感じさせるのだという意見もある。もちろんその効果もあろう。しかし、植物による遮熱効果は見掛けの体感だけでないことは、現代では小・中学校の理科にでも出てきそうな科学的に実証された事実なのである。京町家に見る先人の知恵には本当に考えさせられることが多い。私たちが「自然との共生」を考える時、それは自然を遮断するということではなく、まず、自然を受け入れるということではないだろうか。

「平成の京町家」…京町家。これほどのこだわりを持たせる魅力は何なのであろう。京町家の何が優れていると考えるのか。期待に胸の高まりを禁じ得ない。



センターからのお知らせ

景観・まちづくり大学2009のご案内

※お申込み、お問い合わせはセンターまで

●まちづくり実践塾

- 14時～16時 会場：京都市景観・まちづくりセンター
- 10/10(土) 地域文化を学び教える方法とは
地域密着型のまちなか博物館・京都文化博物館の取組
講師：南博史氏(京都文化博物館主任学芸員)
- 11/7(土) 『食』を触媒にしたまちづくりのプロデュース
伏見の特色ある食材を生かした地域ブランド食品作りの取組から
講師：斎藤三映子氏(株式会社エス・エス・エス・エス)
※京都中小企業家同友会協働企画
- 12/12(土) マンションは地域と共生して暮らせるのか
まちセンの事例集『おつきあいのコトハジメ』と相談事例から
講師：田村哲夫氏(NPO集合住宅改修センター代表理事)

●京のまちづくり史セミナー

- 14時～16時
- 11/28(土) 歩いて学ぶ京の水②
疏水を活かした伏見のまちづくり
講師：西尾信廣氏(京都環境計画研究所所長)
会場：伏見疏水(鴨川運河)・聖母女学院短期大学
- 12/19(土) 歩いて学ぶ京の水③
上賀茂神社と水
講師：米田裕之氏(上賀茂神社権禰宜)
会場：上賀茂神社

●京町家再生セミナー

- 10/12(祝) 西陣の工房めぐりとお話し
町家の再生とまちづくり アートがまちを変えた！
14時～16時
講師：小針剛氏(町家倶楽部ネットワーク)
集合場所：桜井公園(上京区智恵光院今出川上る)
- 10/31(土) 再生された町家めぐりと再生の知恵を学ぶ
町家再生物語 改修のポイントから活用まで
13時30分～16時30分
講師：西村孝平氏(京都府宅地建物取引業協会)
木村忠紀氏(町家居住支援者会議)
会場：京都自由大学(下京区松原通油小路下の樋口町)・他

●京町家再生セミナー

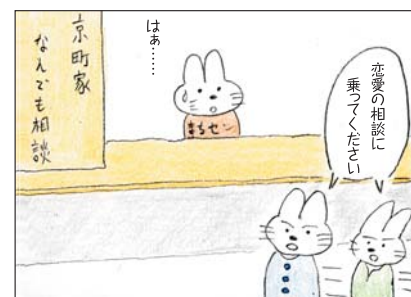
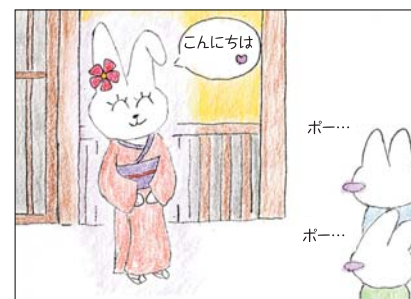
- 11/14(土) 木と紙で灯りをつくってみよう
灯りから考える町家とまちづくり
13時30分～16時
講師：田畑次氏(あかりデザイン工房)
谷口親平氏(姉小路界隈を考える会)
内藤郁子氏(京都府建築士会)
会場：子ども相談センターパトナ
(中京区姉小路通東洞院東入墨華院前町)
- 11/29(日) 製材所の見学と焼杉体験
木から見える町家の姿
13時～16時
講師：狩野文博氏(京都府建築工業協同組合)
中川典子氏(株千本銘木商会)
岡田和也氏(株岡田材木店)
会場：岡田材木店(南区吉祥院西ノ茶屋町)

●町家所有者・居住者の集い

- 10/18(日) 受け継いだ町家の良さを活かす
町家を拠点としたつながりづくり
15時～17時
ゲスト：振本ありさ氏
(アリサ・ハウスミュージアム主宰)
会場：ARISA HOUSE MUSEUM
- 11/15(日) 六原学区の町家めぐり
地域の魅力を伝えるマップをつくろう
14時～17時
コーディネーター：朝倉真一氏
(まちひろば計画工房主宰)
会場：京都市東山区
※集合場所は別途ご連絡します。
- 12/13(日) 町家で自然素材なワケ
家をつくる素材の扱い方・使い方
15時～17時
講師・会場は調整中

京兎物語

ペンネーム ひこ



まちセンコミュニティFM放送

まちづくりチョビット推進室の放送枠をお借りして
2カ月に1回の企画をしています。
京都三条ラジオカフェ (FM79.7MHz)

放送 第二、第四土曜日の15:30～16:00

第二、第四日曜日の7:00～7:30

▼過去の放送分はこちらでお楽しみいただけます。

<http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/chobitto.html>

センター活動拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp

HP: <http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

●開館日(相談の受付等)

9:00～21:30 (月曜日～土曜日)

9:00～17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日に当たるときは翌日)

年末年始(12月29日～1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



まちづくりのお手伝いします!

まずは相談のります!

各種セミナー
使える情報が盛りだくさん。

一部活動費助成
しています。

サポートに専門家
も派遣できます。

